2020年度卒業・修了予定者アンケート　I. 分析と提言

３．QBS 学府・修了時アンケート（産業マネジメント専攻）

①基礎データ

36 通（前年度と同数）の回答を得られた。

【二年間の総合評価について】

質問項目	平均点
教育内容は全体として期待通りであった	4.25
カリキュラム体系は満足できるものであった	4.06
教育方法は適切なものであった	4.25
授業環境〔講義室、諸設備（ハード面)〕は満足できるものであった	3.92
授業環境は〔運営、サービス（ソフト面)〕は満足できるものであった	3.78
教員の指導は全体として十分であった	4.17
総合評価として 2 年間の就学に十分満足している	4.19

そう思う＝5、ややそう思う＝4、どちらでもない＝3、ややそう思わない＝2、全くそう思わない＝1

- 二年間の総合的評価については、「教育内容は全体として期待通りであった」、「教育方法は適切なものであった」などの項目をはじめ、全ての項目でおおむね高い評価を得ている。

【プロジェクト演習の評価について】

質問項目	平均点
演習内容、方法、プロセスに十分満足している	4.39
プロジェクト演習結果の出来映えは満足できるものである	3.90
プロジェクト演習遂行のため十分に努力した	4.58
プロジェクト演習指導教員の指導内容は的確であり、演習を円滑に遂行できた	4.42
プロジェクト演習指導教員の対応は綿密、丁寧であった	4.55
プロジェクト論文審査、発表会のあり方や結果に対し満足している	4.32
総合評価としてプロジェクト演習に十分満足している	4.58

そう思う＝5、ややそう思う＝4、どちらでもない＝3、ややそう思わない＝2、全くそう思わない＝1

- プロジェクト演習の評価については、「総合評価としてプロジェクト演習に十分満足している」、「プロジェクト演習遂行のために十分に努力した」、「プロジェクト演習指導教員の対応は綿密、丁寧であった」などの項目をはじめ、全ての項目でおおむね高い評価を得ている。

②定性コメント

以下、QBS 学府・修了時アンケートの記述回答の主な内容について記す。

【二年間の総合評価について】

1）教育、授業内容に関し、満足・不満足の内容を具体的に記述して下さい

- 2 年間の経験を踏まえ満足しています。
- カリキュラムや教員の熱意、授業内容にはとても満足しています。一方で、授業設備には改善が必要な部分があろうかと思います。これはコロナ禍の影響もあろうかと思いますが、環境的に準備が整っていない中でオンライン授業が進行された場面も見受けられました。また、学生に対する支援は十分ではないと感じることがありました。例えば必要単位数を満たしているのかなどの質問を教務課などにさせていただいても、自分で確認してください、という回答でした。
- 2 年目はオンラインということもあり、講義中の学生間の交流が十分に図れなかった。
- レポートに関して評価点だけでなく、コメントをいただきたい。教員によって評価点だけで何をどのように評価されたのかがわからないので改善の仕様がない。
- 教員による ICT 対応の差異が大きく、進んでいる教員に合わせて講義を提供するべきと思います。一部の教員はこれまでの対面講義のクオリティを超えるハイブリット講義を提供しています。
- 授業の終了時間を守らないケースがあった。ゲストスピーカーの方の話が非常に長引いたのが原因だが、開始時間だけでなく終了時間も守って頂きたい。
- アジアに力を置いている割には、カリキュラムの面で物足りなさを感じた。
- プロジェクト論文の執筆にあたり、研究方法についての講座があるとなお良かった。

2）カリキュラム体系に関し意見があればそれを記述して下さい（今後開講すべきだと思う科目名など）

- ICABE にも単位付与されると良い。
- 国際的な戦略論の科目が充実していましたが、一方でローカルに注目した戦略やケースディスカッションの科目があってもよいのではと感じました。具体的には中小企業をテーマにした内容の科目があればいいかと思いました。
- QREC との連携だけではなく、MOT の側面での授業がもう少し厚くなると良いと思います。
- 企業戦略は、必修にしても良いのではないでしょうか。統計の基礎についても選択授業としてあればありがたいです。
- 英語開講科目、データ分析の方法（python の活用）、農業とビジネス、VC ビジネス、非営利ビジネスなどの科目があればと思いました。
- 2 年間で 1 回しか開講されない講義があり、プロジェクト演習で立て込んでいる 2 年後期にその科目が組まれると、学生の間には受講できないことになります。
- マーケティング、ファイナンス系の講義を増やして欲しい。
- 土曜日開講の科目を増やしてほしい。
- 税務関係の科目、英語で開講される科目（できれば前期でも英語での開講科目があると良かった）
- シラバスに記載されている内容に満たない講義がないかのチェック体制とその場合の補完を考慮頂きたい。今後開講頂きたい講義は、ファミリービジネス・事業承継についての講義を望みます。
- ここ最近注目されている「行動経済学」を盛り込んでほしい。
- マーケティング（実践編）、交渉術、契約法、ロジカルシンキング、人的マネジメント、心理学
- 論文につかう研究統計についての授業
- ファイナンス、マーケティング、ビジネスマネジメントなどある程度コース分けができるよう各分野の科目数を増やして、専門性が高められるようにしてほしい。また、MBA として、国際認証を取る方向で検討をしてほしい。オンラインを活かして他大学との連携で相互単位認定を広げてほしい。観光や国際物流、デジタルトランスフォーメーション、データアナリシスなど今後のビジネスに必須な科目を解説してほしい。
- 修了に必要な単位数は適正だと思うが、必須科目を少し減らして選択科目を履修できる幅を広げてほしい。

3）時間割や集中講義スケジュールに関し意見があればそれを記述して下さい

- 集中講義でダブルブッキングし、受講したくても受講できないケースがあった。その点を考慮していただくとありがたい。

- 集中講義で受けたい科目の日程が被っており受講できませんでした。
- 2 年目の授業スケジュールが履修したくても、他の科目やプロジェクト演習と重なり単位の上限を設定する必要はあるのでしょうか。向学心のある学生には 40 単位でもチャレンジさせて良いと個人的には思います。
- とにかくタイトな 2 年間でした。日曜の科目があれば少しは余裕があったかもしれません。
- 土曜日の講義を増やすことで単位取得しやすくなると感じた。
- 実務家教員の割合はより高い方が望ましいと思います。
- 全科目とも集中合議にした方が、内容が詰まっていてよいと感じた。
- 開講時間の重複があると複数の科目を履修できないため、できるだけ授業日程の重複をなくしてほしい。特に、次年度受講できない隔年開講科目への配慮があると嬉しいです。
- 時間割に関して、土曜日でも博多駅教室で開講してほしい。
- 冬季の集中講義を増やしてほしい。
- オンラインを活用して、裏のコマの授業を聴講できると良い。ディスカッションに参加できない分はレポートの追加課題や裏履修メンバーで討議する時間を設けて評価し、単位認定してもらえると嬉しい。

4）授業環境（設備などハード面）について意見があればそれを記述して下さい

- 入学当初は学内施設の活用方法がなかなか分かりにくかった。特にインターネット接続に関しては少し説明があると助かる。その他自習室等施設利用に関しては周囲との交流の中で情報共有されるので重点的な対応は不要と考える。
- 博多駅 10 階の自習スペースを充実していただけると助かります。また本学図書館においては十分な対策をして極力閉館しないでいただけると助かります。論文の執筆が佳境である時期に閉館が多く、一方で他大学では十分な対策の上オープンしているケースが多かったので改善の余地を感じました。
- 通学が困難な学生にとっては、ＷＥＢ授業は教育機会の拡大に資すると思います。
- ハイブリッドが非常に良かった。
- 今般のコロナ禍以降、従来の対面授業一本では学生は集まらないと思われます。仕事をしながら学ぶ学生にとって、オンライン講義は理想の教育環境でした。
- 伊都キャンパスはとても遠いです。コロナ終息後もオンライン講義があれば、社会人の受験者が増えると思う。
- 伊都キャンパスなど設備も綺麗でよかったですが、コロナの影響で活用しきれなかった。
- 自宅のネット環境の整備が必要だと痛感致しました。
- 自習できるスペースが、博多だけでなく、天神にも欲しかった。仕事帰りにネットで受講できるスペースも欲しい。なかなかログインできなかった（ホストからの承認が遅かった）ことを理由に遅刻とみなされたことは残念でした。
- After コロナであっても、可能であればオンライン受講もしくはハイブリッド受講ができるとビジネスパーソンとしては非常に利便性が高い。
- 博多の自習室が狭い、夏は非常に暑い
- 九経調の bIzcoli(ビジネス図書館)が無料で利用できることを知ったのが 2 年の秋でした。使える施設がたくさんあります。新入学時に情報コンシェルジュのような存在がいたらよかったと思いました。

5）授業環境（運営などソフト面）について意見があればそれを記述して下さい

- 学校側からの情報共有は掲示板のみであった。例えば LINE などのツールで情報を流す等の手段もあっても良いのではと思う。即時性が必要な情報、例えば休講情報などは学生同士の情報授受で認識することが多かった。
- 集中講義などの外部講師の充実が必要、オンラインの利点を活かして授業においても他大学との交流を促進するような仕組みの導入
- ハイブリット講義への対応強化をお願いします。指向性マイクや高性能カメラの設置をご検討いただけますと幸いです。
- コロナ終息後もオンライン講義があれば、社会人の受験者が増えると思う。

- 問い合わせに対し、的確に迅速に対応してくださり、良い環境であった。
- 出欠が間違いなくとられているのか自分でも確認をしたかった。不安に感じる。
- 入学した時に、Moodle、campusmate で使うアカウントの設定および使い方などがわからず、学生が混乱していましたので改善していただきたいです。
- ＺＯＯＭの活用により、遠隔地に住む生徒や通勤・通学の都合で参加をあきらめなければならない人でも授業に参加できるようになったことは結果としてよかったと思います。
- 教務に関わる各種事務手続きが、博多キャンパスでも出来ると利便性が高い。
- 事前教育時にまず、QBS の修士課程で求められるレポート、論文の書き方、参考文献をどう読むのか、効率的な研究活動の基礎の基礎を教えてほしい。英語論文の読み方、探し方や読み方などは図書館で受講でき、参考になりました。
- QBS のメッセージボードやムードル、キャンパスメイトなどが分かれているため、一元化できると非常に便利です。

6）この 2 年間で何が得られ、具体的にどのような力が付いたと思いますか。考えるところを記述して下さい

- ビジネスについての全般的な知識を得ることができた。勉学をアクティブに行うことで自己の世界が広がった。
- 人脈と自身。異業種の仲間ができたので、業務上、あるいは人生で困ったときに相談する人が増えた点。また自分の考え、行動に対して合理的かを客観的に見る力が付いたと思うので、自信をもって行動できるようになった。さらに、周囲への働きかけなど積極的な行動ができるようになった。
- 組織学や戦略論を重視して学べたことが一番得られたことです。
- アカデミックな理論に基づいて考える力
- 企業経営を俯瞰し、多様な視点から見ることができる能力が高まったと思います。
- 物事を深く考えられるようになれた
- 問題意識を高める能力。課題解決能力。考える力。コミュニケーション能力。
- 得意としていたファイナンスの知見を増強できた。ベースがなかったマーケティング、組織論の知見を習得できた
- ロジック、協調性、リーダーシップ、人間関係ネットワーク
- 想定外を想定内にする考え方の柔軟性が得られたと思います。
- 多角的な視点、チームマネジメント
- 多角的な考え方、深く洞察するクセがついた。モチベーション高く努力されている方を間近に見ることができ、刺激を受けた。
- ロジカルシンキング、ファイナンス思考、アントレプレナーシップ
- 答えのないところに、答えを導いていける力が付いたと思います。
- プロジェクト演習では、詳細な分析から答えを導き出すことが経験でき、理論立てて考えることの重要性を再認識し仕事に繋がる経験となりました。
- 投資を行う際、どのような基準によって意思決定すればよいかという力が身についたと考える。
- 課題の認識方法、フレームワークを使いながらロジカルに思考実験を行い、解決策を考えるという訓練する力。多様なバックグラウンドを持つ方々とチームを作り、解決策を導き出す力。
- プレゼンテーションの能力が身につけました！
- 座学の大切さと研究をし続ける、継続力を養ってくれました。
- 無知の知。今後の自分のビジョンに対して何を勉強したらよいかが分かった点。
- ビジネスで発生する事象などを多面的に捉えることができるようになった。
- 統計分析や論文作成の考え方などがわかり、実務への転用を理解することができた。リーダーシップ論や倫理を基にした考え方ができるようになった。
- 実務で行っている事柄を、理論で説明できるようになった。ビジネス系の授業は実務としては当たり前の事ではあるが、それを理論として裏付けができる点が有用。
- 経営に対して総合的な知識がついた。

- 要点を簡潔にわかりやすく説明するには、知識を深く噛み砕いて理解して、自分の思考として落とし込む必要があると合同ゼミとプロジェクト論文執筆から学びました。先生方、先輩、同期、後輩との討議を通じて､自分の思考力や多角句的視点の欠如を再認識できた点がこの 2 年間の成果です。
- 経営に関する実践的な知識と解決能力を高めることが出来たと思います。また、精神力、集中力、協調力、倫理的思考、ポジティブ思考、体力、学ぶ素直さなど多くの基本的能力も高めることができました。
- ビジネススキル全般を上げるための必修、選択科目と専門分野を掘り下げる論文執筆にバランス良く取り組めた。

7）経済学府での教育の今後の改善に対する意見があればそれを記述して下さい

- ラウンドテーブルへの質問の目安箱について、質問者の名前と質問内容を掲示板に掲示されて驚いた。
- 他学部や QREC 等のカリキュラムも学べる環境にあり、主体的に選択と行動をすれば学びの幅が広がる。一方社会人学生という立場上、時間の制約がある。例えばオンデマンド講義など、場所と時間を選ばないスタイルが一部あっても良いかと思う。
- 大学のブランドを活かした他大学との合同講義がもう少しあってもよいのではと感じました。
- リカレント対象科目の拡充、リカレント学生の積極的な呼び込み（QBS の学びをどう仕事に活かしているかの意見交換ができれば価値が高い）
- 入学式などにおける新入生に対する説明を大学事務局の都合ではなく、新入生目線で資料の作成を行ってほしい（あまりにも資料が多く、まとめられていない）
- リカレント教育用プログラムの充実、オンライン講義を主体とするカリキュラム編成
- 他の専攻とディスカッションをする機会があれば、お互いにいい刺激になるかもしれない。
- 成績の評価方法で納得いかないものもあり、より公平さを保てるようになればいいと思います。
- 九州一円の中小企業に勤める方々が、企業力向上に資するようなリカレント教育の場として活用していただけるような環境になるとよい。
- 基礎知識はアカデミックな授業が良いと思いますが、2 年時の応用編の授業は、実務家の授業がもっと多くても良いのではないかと思います。
- 受け身になりがちな講義が多く、もっと知の共有ができるような内容にしていただけると嬉しい。
- １年の後期から、ゼミにオブザーバー参加ができるような制度があると良いと感じました。
- 英語開講科目の充実。
- 経済学府の選択英語講義を受講しましたが、日本人は私一人でした。今の九大の業績は優秀な外国人留学生特に中国人学生に支えられている部分が大きいと思います。日本人学生も積極的に英語授業に参加してほしいです。そのためには経済、経営に関する英語を学ぶ講義が準備講座として設置されると良いと考えます。

【プロジェクト演習の評価について】

1）プロジェクト演習の内容について意見があればそれを記述して下さい

- 非常に苦労し、大変な思いをしたが、一方で得られるものも多く、過ぎてみれば全員に是非とも選択して欲しい演習だと思う。
- 担当教員に恵まれました。丁寧にご指導いただき、学びが多い 1 年でした。一方でゼミによってはカラーもあり不満を述べている声も耳にしました。例えば年に 1～2 回はゼミでの括り無く、PJ 論文執筆者で意見交換できる場があるとよいのでは感じました。
- どういう観点で評価がされるのか、何を持って優秀とされるのかが不明瞭なので、明らかにしていただきたい。
- できれば、審査会後でもいいので副査の教員から本音のアドバイスをいただきたい。
- 1 年時から指導教員を決定し、1 年後期からゼミに所属することをご検討下さい。実質 8-9 か月ではどうしても時間に追われ、質の面で充分な研究であったと言い難いです。
- プロジェクト演習を通して学んだことが、これからの自身のビジネスにおける指針となりました。

- プロジェクト演習は毎週毎週、非常に大変でしたが、自分が入学の時から思っていたことを表現することができ、ＱＢＳに来てよかったと思います
- １年の後半くらいから、テーマ選定、論文執筆の基本講座など、プロジェクト演習がスタートできるようなサポートがあると２年目の演習の時間を有効に活用することが出来るのではないか。
- 意味のある素晴らしい機会でした。
- 論文の考え方などが学べて有意義であった。
- ゼミ運営は教員によって違う為、個別にゼミ単位で運営方法を検討すればよいと思います。

２）プロジェクト演習指導教員の指導内容や指導方法に意見があればそれを記述して下さい

- プロジェクト演習の演習内容が、教授の実力によって研究室によって差がありすぎる。ある程度、一定の水準を確保できるよう、実際のプロジェクト演習を何度か第三者機関に監査に入ってもらうなどして、指導方法を指導教官へフィードバックする仕組みが必要ではないか。
- 参考文献など、進捗に合わせて的確にアドバイスをいただき、感謝する。
- 文句なしです。非常に満足しております。
- 大変丁寧にご指導いただき感謝しております。
- とてもお世話になりました。あえて言えば、前半の実習の時も月に 1 度程度テーマについてのゼミがあればよかった。
- 統計の基礎や社会系論文の読み方、執筆要領など基礎からご教示いただきました。感謝しております。その上で、他の教員の方がどのような指導をなさっていたのか、興味があります。
- 質問に的確に答えていたくなど丁寧なご指導により、疑問点を解消させながら論文執筆を進めることができました。
- 適切に指導いただいたので、特にありません。
- 研究テーマの選定、絞り込みなどに苦労し、指導教員の意向に左右され、結局自分が何を突き詰めて研究したいのか混乱することが多かった。
- シラバス通りの素晴らしいカリキュラムでした。
- 非常に具体的かつ適切なタイミングで指導をいただき、自身の学びが深まったと思います。
- 私のゼミについては、指導教員の指導内容、指導方法は適切であったと感じます。

３）プロジェクト演習の運営あるいは全体について要望があればそれを記述して下さい

- ゼミ選択時にゼミの特色等、説明があり、期待した通りの内容だった。プロジェクト演習選択後は、それに集中する傾向があるのでゼミ間で例えばオープンなセミナー情報などを共有できると良いと思う。それぞれのゼミで有用な情報のやり取りをしていると思うので、共有できる情報は IT ツールを駆使して、簡易的に共有するなど。
- 最終的な論文提出は紙でも良いと思いますが、デジタルでの提出を先に行うなどの施策を検討いただきたい。成績をつけることも大事だと思いますが、査読→訂正→提出という順序にしていただければ学生の負担も減りますし、教務課の負担も減るのではないでしょうか。
- とても満足です。
- 点数のフィードバックがあれば、今後の参考にすることができると感じた。
- 具体的な評価の指標を開示してもらいたかった。概要を言われたのみだった。
- 質の向上のため、合宿等の集中講義及び中間発表などの情報共有が必要かと思いました。
- 高田・五十嵐・松永合同ゼミでしたが、前半部分（ビジネスモデル構築）、後半部分（PJ 論文）ともに充実しており、大変満足しています。
- 論文の書き方ルールが分かりにくかった。
- ゼミ運営は学生のリーダーシップ等諸々が試される、総合演習の機会としてもとらえられる。
- プロジェクト論文の執筆要綱はレポートを書く際に習得しておきたいです。1 年時から卒論のフォーマットでレポートを書き参考文献の書式になれておけば、論文執筆時に慌てずに済むと思います。